

参加者氏名：横田 義和

卒業年：昭和45年 卒業学部：文学部

## 「現地を訪問して想うこと」

この度は、東北応援ツアーに初めて参加させていただき、ありがとうございました。

先ずはじめに、第1日目の釜石駅到着時に次の出発時刻を確認せずにバスを降り、釜石市民芸術文化祭展示会場に長居してしまい、その後は、スタッフの曾谷直樹様に大変ご迷惑をおかけし、気仙沼プラザホテル到着まで行動をともにしていただきましたことに深謝いたします。

さて、この東日本大震災が起こってから早くも5年半余りが経過しましたが、この大震災が、現地で被災された人々はもちろんのこと、私たち日本および日本人に与えた影響は、本当に計り知れないほど甚大であったはずであります。

私は、今年のちょうど同じ時期に、学生時代の親友2名と一緒に陸前高田市を訪れました。ところが、今年に入ってから奇跡の一本松がもう一度みたくなくて、このツアーのAコースに申し込んだ次第です。—1年後の現場は、林立していたベルトコンベアーの大がかりな橋梁もすべて取り払われ、あたりは広大な更地となっていました。しかしながら、本格的な復興は正にこれからだという感じを深くしました。また、震災学習列車ではありませんでしたが、釜石駅から盛駅までの普通列車の車窓から見えてくる沿岸の景色も、整地並びに築堤作業が進む膨大な面積と空間でした。翌第2日目の奇跡の一本松はバスの車窓から見学できましたが、現場に行っても見れなかったことは、かえすがえすも残念でした。道の駅「タピック45」に到着し、その側の案内所で展示物に目を通し、パソコンに映ったあの時の想定外の大津波のビデオを見、また、岩手県校友会の方のお話を聞かせていただいて、当時の悲惨な状況を再認識した次第です。

最後になりますが、私は、被災3県の日でも早い復興を願いつつ、「私にできることは何か」、「何をすることが、東日本大震災で被災されたすべての人たちに通じることになるのか」ということを考えつつ、今後の私自身の生活の中に見つけて歩いていけたらと考えています。